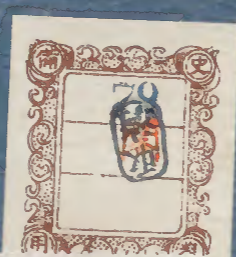


成形圖說

農事部

七

庫	文	閣	內
二九六	二九四	三〇	和
一八架	三八號	冊	書



內閣文庫	
番號	和 29438
冊數	30 (7)
函號	196 96

29438



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



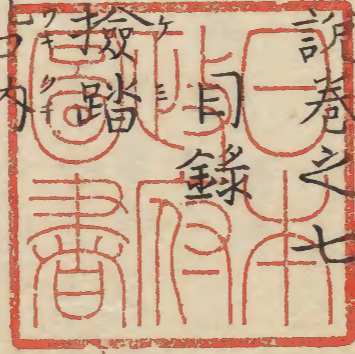
© Kodak, 2007 TM-Kodak



岡
79

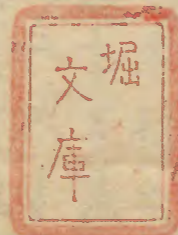


沿^{カテ}納^{トヨ}
食邑
附井地



成形圖說卷之七

内
一一二〇號



踏及本管上司不與委
 官覆踏者杖八十云々
 田同 檢田 輟耕録踏災行云
 我是今年檢田吏
 科糧明疏
 文獻通考五代以來常
 檢視見墾田以定歲租
 視

蕃名

顯宗紀曰巡行郡縣收斂田租蓋いふ一ハ皆毛見取也
 毛見取ハ取箇ハ法ありて其年の出末より其箇の
 増減と所ハ出来よきとして其年より増減あり又不
 也として其箇の村方の盛衰時宜に拘る申ふまじき容
 易子ハ何れども是公より上て私に完る事ありて
 大切ハ心得盡し○凡毛見の法習熟する者ハ秋毫の末
 也瞭察ハ是より其申に撒見の法わり芝當(シ)田の上申

下三等と分て上田一步おどの墾張と分し其一圍の稲
 と刈て糶み做て席み攤上田一步の糶米米に化て某
 升と見積おとあり申田下田と亦如此にハ各一步の
 實積より其町歳限皆准一知おと分撮と爲すおとあし
 又今年の色見ハ二三年前より比視て何れもハ二分降
 ありハ二分陞かどし小極見大極見各認る所とあり
 出合(ト)上よて當年の收納と色じ是は平均と稱ふ○凡
 毛見とありハ其暮少て遠ハ其ハ稻の穂ありと云ふ
 是ゆの者也因是ハ出て毛見より其は其ハ其は其
 ○稻の上中下は毛見は其時其地乃高きまは登て其



吹流祇為
仁智賞何
論朝市遊

山齋言志

兵部卿大
神朝臣安
磨

欲知閑居
趣來尋山
水幽浮沉
烟雲外攀
翫野花秋
稻葉負霜
落蟬聲逐



ど何事と構ふなり如是畝町よりけて見積り四六分
にありとと又ハ其年乃時の等^{シナ}性歳乃免附あども割附
て幼魚^ニ檢ておむくもよりとも見積る一民部式曰凡遭
水旱災蝗不^セ熟田一處五十戸以上者馳^テ驛申上とあり今
之宣代^ニ幼乃所ハ不^シ稔乃^ニ感^スむり穀粒^モ也^モ也^モ見分して
其租^ニ減^スる^ルと見と云^フとふ^ニ其^ノ田^ニ始^テ是^レ訴^スじ
とす^ル人^ハ馬^ノ奔^テ走^リ乃^ハ失^テ墜^リ子^ノ固^リて^ハ相^ノ縁^ヲあ^らり^日也
色^シ又^シ其^ノ五^ノ保^ノい^ハ合^セ五^ノ保^ノ名^ヲま^より^い合^セ名^ヲま^より
莊^ノ頭^ノい^ハお^し編^シ使^ハい^ハお^し御^ノ使^ノ内^ノ持^テて^ハ官
廳^ノい^ハお^し官^ノ廳^ノい^ハお^し上^ノ命^ヲあ^らり^後郡^ノ使^ト

其地^ノは^ノ備^テ其^ノ田^トも^ハ見^ル次^ニあ^らり^不稔^ノ乃^ハ編^ルあ^らり^あ
る^不稔^ノ乃^ハ日^ノ數^ヲ越^スと^ハゆ^かふ^不稔^ノ乃^ハ編^ルハ^ハ風^ノ角^ノは^ハ腐^リる^不稔^ノ
乃^ハ家^ノ倉^ニま^より^てこ^ノ越^ス越^ス丸^ノ丸^ノ乃^ハ及^ビて^ハ漸^ク其^ノ編^ル
釋^ノ放^ル乃^ハ小^ノむ^しは^ハその^ノあり^且又^ハ郡^ノ使^未だ^見分^カせ^なれ
バ^直取^ルこ^ノが^為ふ^不稔^ノ乃^ハ編^ル乃^ハ徒^ラ乃^ハ保^ル官^ノ守^ノの^もあ^らり
次^ニ其^ノ冗^ノ費^ヲも^ハ連^テ費^スと^ハま^より^て終^身の^累乃^ハ及^ビと^ハ亦^ハあり
有^司の^心と^ハ用^ハる^不ま^らり[○]長^國巡^行乃^ハ孝^ハハ^兵部^太
簿^ノも^ハ一^丹後^田守^ノの^城ま^より^て又^ハ其^ノ世^ニあ^らり^た
ハ^人の^心と^ハま^より^一と^ハ丹^後乃^ハ乃^ハ田^畠不^稔乃^ハり
し^不ど^にあ^らり^も見^ルと^ハ訴^スと^ハも^ハ函^封乃^ハ見^ルと^ハせ^て何

とむいせれざりしはばるはしめ書とぞきりりる秋
の田とかぞそのまへたぐおきめらるるもせり何を
いしきいそいぬ所の息と越中をた無とらひられハ又
子の名とよまめりりまも五年七月廿日田造城とい
聖宗隆殿勅字押字とぞよ攻戦いかけ城と居るなり
りるが遊所兼て侍候せられしお今集とぞよ封し鳥丸
殿して 皇朝へ献らるるもと遊所ハお島の道又な
ふ侍候の志とぞよお命ちくおませあひ三條大納言
と勅使とてまよの志とぞよ和睦仰付れ同九月廿二日
五ノ軍と解りりまげお今集の封とぞよ再び遊所とぞ

賜ふそ時鳥丸光磨つててんあつてもるありまよおふ
うじ返は浦島の浪遊所とぞよ一奇浦島やこととぞよ
てまうけ明てたにんごういぞあるる浦島ハ丹波の
各所ありかゝるちぞの遊所とぞよお島の換書とぞよ
号よしてそまぬいなるとぞよ○川成換地とぞよハ浪
水子の為と田地の浪とぞよなり民部式曰位田授給之後
偏号川成不可必改給若非常流損之國明成淵潭之處依
實許相換荒田不在此限とぞよとよと此流河より固本
録曰凡一村の中不代田地新るとも残も立よく登熟た
る時ハ縦高百六のち取果六とぞよとぞよハ高

の内引と立、殘高まで六十石と割毛附免とある。年貢村
則と云ふものあり。けれど引多キ耐ハ殘毛立と云ふら
らざるものあり。是と下並し又谷決字限不催の田あ
らば其地トコロをかり。是と下並し是と免違と云。○西土よりと
周以來乃稅則とある。是の年々稼熟乃上中下と見て
もろと云ふ。是と皆毎年見の上より定る也。周禮云司
稼掌巡邦野之稼辨種稷之種。周知其民與其所宜地。以為
法。而縣于邑間。巡野觀稼。以年之上下出斂法。掌均萬民食。
而調其給。而平其興。是此方竹滑毛見と云ふものあり。
其後漸く賦斂乃重くあり。是に詩魏風の碩鼠ハ國

人其君重斂して民と蠶食一政と修ざると刺さる也。其
後周宣王井田の法と變して秦の高鞅阡陌を開て力役
あり。二十倍し田租口賦塩鉄の利あり。二十倍やりと云
ふ。是より蓋一夫小斂する。其畝乃多少より斂法定む。
法國均シいど世に累の斂數多く為る。是より周より是より利
の勢あり。凡年の豐凶穀の善惡と據く。是多少既定め。是
より所よりよむ。一はよおし。是と斂數ハ同様法用ら
る。とある。又一は乃内其者の穀也。善惡と據く。斂數定む。
と云ふ。是より。或書は管仲齊の桓公。相考する。時歳は
凶穰あり。穀小貴賤あり。是より。斂法定む。是より。

輕うと足ざうとさハ斂セ輕し金と重くと又李悝の
 文侯乃為小此法を以て大熟四ツの内斂三ツ舎一ツ中熟少は
 斂二下熟少ハ斂一斂甚多りれば民も傷む少りれ
 バ農も傷む是民も傷む少りて農も益す
 ししと亦上より収ると斂とくは下より取れ舎とくは此
 意ハ凶年より推して生米少し是より豊年乃出^シ生米^シ也
 算法を以て民も取米出せば凶年民も取米微して農
 夫^{ツラ}窮乏は^{ツラ}と^{ツラ}思ひ凶年も豊年乃^{ツラ}と^{ツラ}民も
 取米出せば凶年民も取米少りて民不熟と歎くも

聶夷中
 父耕原上田
 子刷山下荒
 六月禾未秀
 官家已修倉
 鋤田當日午
 汗滴禾下土
 誰念盤中餐
 粒粒皆辛苦
 二月賣新絲
 五月糶秋穀
 醫得眼前瘡
 剗却心頭肉
 我願君王心
 化為光明燭
 不照綺羅筵
 只照逃亡屋



くれバ農と勤ひ乃高成其ノ是致志少されバ農と傷
 たり若仲字埋凶年乃事致校つて定しつある事し是西
 土と此村子とて常々の收と多くぬる事あり○顯
 宗紀播磨國司伊與小楯巡行郡縣收斂田租とつらぐお
 と國司親つらて其由巡撫して田租致文致せし
 里万葉集の同伴旅人檢稅使よりありてりられし事又
 書紀より班田使事とみとも共子田租をかり納るの
 官人ともん〜り○賦斂の急よりありて一步されバ一歩
 の租わす時田單民といふ事とも其稅免致もあつやう
 にありてゆゑつと必然乃勢なり一步の田みくも租

稅はくけて上ふ收乃征をすればみつ〜耕耨の業と
 疎みして田疇皆荒れ就ち荒しよと一歩班ち校るを
 は其租を責て是は征を征せざれば急はより於是るは
 是之と交えてハ其租を納せれば其費あつは恐もてい
 うみと其田と耕し其業を耘はあつは〜万葉集
 窮問答の歌に綿とまき布扇衣の海布の〜と破さのれ
 子残席の〜扇はおかけ扇の曲舎の裡に直土と藁解
 敷て父母ハ枕の〜と妻子どもハ趾の〜と鏡居て慈
 一吟い實はハ煙吹たては甌はハ蛇の巢かして飲炊く
 六ととも〜と鳥の咽呼〜といとの來て〜

とは一きつといふぐおとく幣は里長りあるハ渡屋ま
 まで来立呼らぬとあり是里長り策杖と携来て屋の
 戸はよまかく里田の租と出せせ徴迫まり建武式目よ
 と年貢謹納とあり是今の収納檢使ふして杜甫の詩よ
 今彼徴斂者迫之如火煎とも韓文公董生行云有吏日來
 徴租更索錢ともえとありやはともかとも息つきあへ
 どくはきハ民のよとがあもどや唐の陽城り至道州
 治民如治家不以簿書介意自言曰撫字心勞催科政拙と
 あり郡里に臨てる姓と治ハ控育とありとあり
 ともれハ帳面の守りあるりハ苟も民に利ありハお

のよの慮見と以て道理よかあやうよ政ハゆるべ
 れと云○謹按よ凡田賦ハ上よ取り下よ切り新公半
 の定制ありて百姓の身帯ハ非常の荒歉さるれば
 定代不足とく地帯の米穀ハ年々減りたるの儀よな
 しく亦志也然ハ凶年生て地帯よく或ハ馬牛の畜不付
 よ幣て買求る費し或ハ家内乃疾病不幸おつとき困窮
 不及ぶ等々非常の災難といふとれども非常の災ハ
 稀らある事よて一旦本分よ立復り耕作出轉し二年お
 と豊熟あれむいふ事大弊を免るる所なり借取負債を償完
 の道理ありはハ其外農業と味みし高賣に同掛源を

よ物好し情愛^{イサカヒ}闊^{ワカミ}很^{ハシ}よく^{ハシ}さう^{ハシ}親^{オヤ}足^{タラシ}弟^{イモ}の誠^{マコト}と^{ハシ}種^{タネ}納^ネど
必^{カナラシ}持^テ我^ガ儘^{マシ}ふ^{ハシ}して自^ミ滅^{メツ}と^{ハシ}振^ヒく^{ハシ}ハ^シ身^ミ死^シ不^フ届^{トビ}を^{ハシ}多^タり^{ハシ}され
バ^{ハシ}百^{ヒャク}姓^{セイ}を^{ハシ}奉^{ホウ}持^チよ^{ハシ}す^{ハシ}り^{ハシ}回^ワ地^チハ^{ハシ}上^ノハ^{ハシ}一^{イツ}人^ニの^{ハシ}恩^{オン}澤^{タク}の中^ノに^{ハシ}神
が^{ハシ}依^ヨり^{ハシ}申^{マシ}お^{ハシ}て^{ハシ}私^シの^{ハシ}物^{モノ}を^{ハシ}一^{イツ}ハ^{ハシ}尺^{シツ}寸^{シユン}の^{ハシ}地^チを^{ハシ}も^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}に^{ハシ}あ^{ハシ}ら^{ハシ}せ^{ハシ}り^{ハシ}
仍^{ナラ}得^ベと^{ハシ}載^{サイ}侍^シら^{ハシ}る^{ハシ}も^{ハシ}ま^{ハシ}じ^{ハシ}げ^{ハシ}幼^コ少^{ショ}より^{ハシ}貴^キ計^{ケイ}と^{ハシ}樂^{ラク}して^{ハシ}勤^{チン}敬^{ケイ}と
あ^{ハシ}ま^{ハシ}好^{コウ}ま^{ハシ}じ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}も^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}事^ジと^{ハシ}堪^{カン}え^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}ハ^{ハシ}勇^{ユウ}壯^{シュウ}の^{ハシ}理^リと^{ハシ}そ
情^{セイ}し^{ハシ}刺^シ度^トと^{ハシ}堪^{カン}え^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}親^{オン}身^ミと^{ハシ}壽^ス敬^{ケイ}五^ゴ保^ボの^{ハシ}約^{ヤク}と^{ハシ}背^セり^{ハシ}ど^{ハシ}家
中^{チュウ}睦^{ムツ}しく^{ハシ}心^{シン}祈^イて^{ハシ}勇^{ユウ}進^{シン}尚^{シヤウ}日^{ニツ}く^{ハシ}の^{ハシ}功^{コウ}業^{ゲツ}と^{ハシ}漸^{シユン}き^{ハシ}り^{ハシ}正^{テイ}直^{ジツ}實^{ジツ}盡^{ジン}
の^{ハシ}風^{フウ}儀^ギと^{ハシ}た^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}も^{ハシ}ま^{ハシ}じ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}我^ガ身^ミを^{ハシ}教^{カウ}づ^{ハシ}れ^{ハシ}バ^{ハシ}子^シ孫^ソも^{ハシ}及^キび
て^{ハシ}必^{カナラシ}天^{テン}地^チ神^{シン}の^{ハシ}真^{マコト}加^カと^{ハシ}崇^{ソウ}ま^{ハシ}る^{ハシ}に^{ハシ}て^{ハシ}の^{ハシ}若^{ニギ}ハ^{ハシ}い^{ハシ}は^{ハシ}る^{ハシ}の^{ハシ}如^ニ
イサカヒ
ワカミ
オヤ
タラシ
イモ
マコト
タネ
オヤ
ハシ
タラシ
イモ
マコト
タネ
オヤ
ハシ
タラシ
イモ
マコト
タネ
オヤ
ハシ
タラシ
イモ
マコト
タネ

よて^{ハシ}よ^{ハシ}と^{ハシ}勤^{チン}り^{ハシ}骨^{ハチ}固^{カウ}て^{ハシ}の^{ハシ}業^{ゲツ}ハ^{ハシ}壽^ス命^{メイ}を^{ハシ}め^{ハシ}て^{ハシ}て^{ハシ}玄^{ゲン}孫^ソ
の^{ハシ}末^{マシ}が^{ハシ}末^{マシ}まで^{ハシ}さ^{ハシ}る^{ハシ}こ^{ハシ}ろ^{ハシ}と^{ハシ}て^{ハシ}老^{ラウ}ら^{ハシ}く^{ハシ}の^{ハシ}樂^{ラク}と^{ハシ}愛^{アイ}さ^{ハシ}ど
か^{ハシ}し^{ハシ}り^{ハシ}の^{ハシ}市^{イチ}井^キ浦^フ濱^ヒの^{ハシ}高^{カウ}く^{ハシ}偉^ヱ志^シの^{ハシ}酒^{シュ}食^{シキ}淫^{イン}歌^カと^{ハシ}あ^{ハシ}し^{ハシ}ま
に^{ハシ}て^{ハシ}絶^{ツツ}え^{ハシ}て^{ハシ}堪^{カン}え^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}も^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}事^ジと^{ハシ}堪^{カン}え^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}ハ^{ハシ}勇^{ユウ}壯^{シュウ}の^{ハシ}理^リと^{ハシ}そ
突^{トウ}と^{ハシ}あ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}も^{ハシ}ま^{ハシ}じ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}我^ガ身^ミを^{ハシ}教^{カウ}づ^{ハシ}れ^{ハシ}バ^{ハシ}子^シ孫^ソも^{ハシ}及^キび
れ^{ハシ}儀^ギの^{ハシ}風^{フウ}と^{ハシ}た^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}も^{ハシ}ま^{ハシ}じ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}我^ガ身^ミを^{ハシ}教^{カウ}づ^{ハシ}れ^{ハシ}バ^{ハシ}子^シ孫^ソも^{ハシ}及^キび
が^{ハシ}ち^{ハシ}の^{ハシ}こ^{ハシ}ろ^{ハシ}と^{ハシ}て^{ハシ}の^{ハシ}志^シを^{ハシ}も^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}ハ^{ハシ}勇^{ユウ}壯^{シュウ}の^{ハシ}理^リと^{ハシ}そ
ふ^{ハシ}し^{ハシ}甲^{ケウ}斐^ヒあ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}は^{ハシ}く^{ハシ}と^{ハシ}衛^ヱの^{ハシ}女^メと^{ハシ}欺^キま^{ハシ}る^{ハシ}ハ^{ハシ}勇^{ユウ}壯^{シュウ}の^{ハシ}理^リと^{ハシ}そ
問^{モン}み^{ハシ}ま^{ハシ}じ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}も^{ハシ}ま^{ハシ}じ^{ハシ}ら^{ハシ}る^{ハシ}我^ガ身^ミを^{ハシ}教^{カウ}づ^{ハシ}れ^{ハシ}バ^{ハシ}子^シ孫^ソも^{ハシ}及^キび
唯^{タラシ}神^{シン}代^{ダイ}の^{ハシ}志^シを^{ハシ}も^{ハシ}た^{ハシ}る^{ハシ}ハ^{ハシ}勇^{ユウ}壯^{シュウ}の^{ハシ}理^リと^{ハシ}そ
イサカヒ
ワカミ
オヤ
タラシ
イモ
マコト
タネ
オヤ
ハシ
タラシ
イモ
マコト
タネ
オヤ
ハシ
タラシ
イモ
マコト
タネ
オヤ
ハシ
タラシ
イモ
マコト
タネ

る屋々〜後不交常立の道ハ農業の一として耕作とさ
大切と勤むれば作場のゆくゆくは中なる事あれバ
百世〜者師と忌諱とさ〜

浮口 即浮田也浮田の式多あり亦是と浮得とも浮免ともいふ
賦と浮田ともいふ賦は田の種むすむと云ふ
浮免 新田宮蔵建仁二年八月欲被下殊任院廳御 總延
沿納 賦文獻通考自唐以來民計口輸賦外増取他物復折為
藩名 賦雜變之賦也亦謂之沿納而名品煩細其類不一

凡百姓の山海は播里居る者ハ山をれば竹木をりて便

宜と得川海をれど魚糧ともて使ふと浮るも是は浮口
あり因捨地とて河山川海と云ふは細ども云ハ或所よ由
て山川海の便宜なりと指賦して浮得と云ふ祖額あり
込ゆ急代かりりあさき所ありし〜ハ調庸の征有
ども竹山の組ありとせむ田日記足利義輝の三好松
永り黨もとされ〜後弟の義昭織田信長と相再ハ京師
に復られ〜元龜元年の控草にも付あり〜
上米免課乃事とけり蓋竹木ハ山林の廣狭長圍乃大小
等の負數よるとせむ租の増減をさる〜し或謂數次ハ
年々十々一を伐採十々一の中とせむ者一々あり

分ハ上納ノ充ルルニシテ後ハ其ノいふ一ノ時田地ハ必
 桑田桑畑あり延暦ノ後本綿種^{ガキ}中絶シ濃倉ノ時代ニ賴
 朝卿武藏國蓮生寺に以田五町桑田五町寄附セラルル
 一ノ^{カヒ}と東鑑ニ入ルル^カ○凡田畑ノ樹木^{ツキ}桑ハ大小
 由^{カヒ}種^カと善^カハ綿と云ル其綿ノ多少ト考ヘ幾本ノ下ニ
 綿幾^{ナニ}又同^{ナニ}として其綿桑ノ熟^{オラレ}刻ハ一本ニ三^{ナニ}又同^{ナニ}如ク
 其^{ナニ}中^{ナニ}注^{ナニ}ハ大小あるハ一二^{ナニ}或^{ナニ}四五^{ナニ}又^{ナニ}乃^{ナニ}善^{ナニ}あり桑樹
 と綿桑ノ自^{ナニ}と合^{ナニ}て其村ノ總計^{クワリ}ありて其^{ナニ}某^{ナニ}程^{ナニ}と記^{ナニ}
 綿^{ワタ}自^{ワタ}ハ米五升賦^{カキ}とし其村ノ桑調^{クハミ}ノ高^{ナニ}を^{ナニ}計^{ナニ}
 何^{ナニ}ノ^{ナニ}楮^{ナニ}樹^{ナニ}と大小^{ナニ}より^{ナニ}と^{ナニ}液^{シユ}と^{ナニ}同^{ナニ}と考^{ナニ}ヘ幾^{ナニ}本

の下ニ同幾^{ナニ}又とし其楮^{ナニ}ノ熟^{ナニ}を^{ナニ}計^{ナニ}ハ一本^{ナニ}ニ三^{ナニ}又^{ナニ}か
 其^{ナニ}中^{ナニ}殊^{ナニ}ニ細^{ナニ}く巨^{ナニ}き木^{ナニ}相^{ナニ}交^{ナニ}り^{ナニ}其^{ナニ}ハ一二^{ナニ}又^{ナニ}或^{ナニ}
 其^{ナニ}ノ善^{ナニ}何^{ナニ}ノ如^{ナニ}して楮^{ナニ}樹^{ナニ}ノ熟^{シユ}液^{シユ}ノ自^{ナニ}計^{ナニ}合^{ナニ}セ其^{ナニ}村^{ナニ}ノ
 計^{ナニ}ありて其^{ナニ}某^{ナニ}程^{ナニ}と^{ナニ}計^{ナニ}し漆^{ナニ}自^{ナニ}ハ^{ナニ}米^{ナニ}何^{ナニ}斗^{ナニ}か
 其^{ナニ}中^{ナニ}其^{ナニ}村^{ナニ}乃^{ナニ}楮^{ナニ}役^{ナニ}ノ高^{ナニ}を^{ナニ}計^{ナニ}也延^{ナニ}暦^{ナニ}十九^{ナニ}年^{ナニ}太
 政^{ナニ}官^{ナニ}府^{ナニ}曰^{ナニ}伊^{ナニ}勢^{ナニ}國^{ナニ}一^{ナニ}應^{ナニ}催^{ナニ}植^{ナニ}桑^{ナニ}漆^{ナニ}二十^{ナニ}萬^{ナニ}八^{ナニ}千^{ナニ}七^{ナニ}百^{ナニ}九^{ナニ}十^{ナニ}六^{ナニ}
 根^{ナニ}多^{ナニ}氣^{ナニ}郡^{ナニ}十^{ナニ}四^{ナニ}萬^{ナニ}七^{ナニ}千^{ナニ}三^{ナニ}百^{ナニ}六^{ナニ}根^{ナニ}桑^{ナニ}十^{ナニ}三^{ナニ}萬^{ナニ}六^{ナニ}千^{ナニ}五^{ナニ}百^{ナニ}三^{ナニ}十^{ナニ}
 三^{ナニ}根^{ナニ}漆^{ナニ}一^{ナニ}萬^{ナニ}七^{ナニ}百^{ナニ}七^{ナニ}十^{ナニ}三^{ナニ}根^{ナニ}
 見^{ナニ}實^{ナニ}一^{ナニ}千^{ナニ}百^{ナニ}三^{ナニ}十^{ナニ}根^{ナニ}無^{ナニ}實^{ナニ}一^{ナニ}
 實^{ナニ}九^{ナニ}千^{ナニ}六^{ナニ}百^{ナニ}三^{ナニ}十^{ナニ}三^{ナニ}根^{ナニ}度^{ナニ}會^{ナニ}郡^{ナニ}
 七^{ナニ}萬^{ナニ}一^{ナニ}千^{ナニ}四^{ナニ}百^{ナニ}九^{ナニ}十^{ナニ}根^{ナニ}桑^{ナニ}五^{ナニ}萬^{ナニ}八^{ナニ}千^{ナニ}四^{ナニ}百^{ナニ}五^{ナニ}十^{ナニ}根^{ナニ}漆^{ナニ}一^{ナニ}萬^{ナニ}三^{ナニ}
 千^{ナニ}三^{ナニ}十^{ナニ}根^{ナニ}
 見^{ナニ}實^{ナニ}七^{ナニ}百^{ナニ}七^{ナニ}根^{ナニ}無^{ナニ}實^{ナニ}一^{ナニ}
 萬^{ナニ}二^{ナニ}千^{ナニ}三^{ナニ}百^{ナニ}三^{ナニ}十^{ナニ}三^{ナニ}根^{ナニ}と^{ナニ}り^{ナニ}是^{ナニ}一^{ナニ}國^{ナニ}ノ^{ナニ}内^{ナニ}

僅二郡よりて狩かくれおとし況天下法おとや事文
類聚云周載師任地漆林之征二十而五とあり

食邑 カテトコロ

蕃名イニコムスト

カテトコロ 食邑ハ古事記ニ糧地と云々なり其の高と云ハ封地

封邑の称にて兼地采邑の官職ニ因りて受るとハたが

里高といハ田穀ノ實積より出ク抄撮と積て其積の高ク
高といハ額後ノ多額ノ額より出ク今田穀幾石と定ると定額
と高といハ額後ノ多額ノ額より出ク今田穀幾石と定ると定額
と高といハ額後ノ多額ノ額より出ク今田穀幾石と定ると定額

計つて所領の高と云ハ太子傳ニ守屋大連の所領
ハ高十八万六千代と記しあり今其高ニ十八万六千代
ハ百廿三万九千二百坪と云ハ三千七百二十段なり守屋
の所領かくのおとく大なる疑ふべし但太子傳ハ所領
と解ハざる人の書ハ其高の多れば守屋と誤りてかく
大相といハるもやいふもべし又新領と高といハるも
解くも其高の多かりき事と云ハるもいハるもいハるも
廷より封戸と賜ふの人ハ半ハ上納し半と己ニ收め其
人夫調庸字ハ全く受て自由やりと云々なり此段の給
地といハるものハ似たり封戸の次第 太政大臣三千戸
此積三十三万七千四百九 左大臣二千戸 此積廿二万
十六坪六合六夕七才九 大納言八百戸 此積八万九千九百九
十七坪七合 大納言八百戸 此積八万九千九百九
七夕八才 大納言八百戸 此積八万九千九百九
中納言四百戸 此積四万四千九百九 参議八十戸 此積
九坪五合五夕五才六

八千九百九十九坪是一戸ハ一家の分して一町四方の
 九合一夕七廿一二坪
 内は三十二戸一町の積、三千六百坪として其内は二十
 二戸あり三十二は割て一戸の積、百十二坪四合九夕八
 才八は九あり十戸ハ千六百廿四坪九合八夕八は九百
千戸ハ十一万二千四百又位田何り後ハ徳知行あり知
百九十八坪八合八夕九又位田何り後ハ徳知行あり知
官職ハ知といひ行といふと某の妻と知行
里吉御記百練鈔字ハ知又受領領知所領ありといひ
行といひ
 北山鈔東鑑太平位田の次第 正一位八十町二子石ハ
記等ハ六 正二位六十四町千五百石 從二位五十四町千
の俸百六十斛六斗六升六合六 從一位七十四町千五
夕六才余あり餘ハ俸ハ

百五十石 正三位四十町千石ハ 從三位三十四町百ハ
ハ 五十石 正四位廿四町六百石 從四位廿四町五百石
ハ 正五位十三町三百廿五 從五位八町二百石 此より以
 下と切取取ると婦女ハ這中より三分の一を減し婦人
 位田ハ其官と辞ても祿身ハ志さざれば夫位田の形
 官位相當とすハ 朝廷の制尊卑高下ハ從ハ貧富強
 弱の過差ありおのけね慈ハ秩祿配をりして位より者
位 後ハ多し亦ハ多き困窮ハ多し職分と安し其所當
ハ 与得やうハ憲法とさしれこも也ハ 相當ハ官位高
 中の福といひりまが正一位ハ任やうれば田地八十



町を賜ひ従五位よふれば田地八町を賜ふ是位田よて
後の禮知行所なり又太政大臣よれば四十町大納言よ
れば二十町を賜ふ是を職分田と云後乃禮役料多あり
故に官位を拜任とれば即ち田禄を賜ふの實多し踐由
急な位昇進と規模とやり又高官下位と云ハ小知行よ
て大役と勤るも禮ハ六位守某官と申又守乃字と加
つて書るり守ハ高官あまどゆもとの位と守てさうあ
ざるの我も申又位高く官下ハ行乃字と加ふ是ハ位ハ
重きれども其位儀と不足よせど法のおとく行よとの
義あり且夫小知行の者よ其位と命してハ其替は封遺

く何ともく利と愛の意あてせよハ聖敎と云ふも
又高知は下級といふ付てハ裏ハ不足し奉公方跡未
よあり申く周て各位相當の各実と立て知行と職事と
相懸して申道の格と制とひ也後世ハ有名せ其の
事出ずぬもさうとて多し禮ハ神社ハ位と授ふよとあ
るは古語拾遺と謂諸社封税とも又式等ハ神税と云と
おれく某神ハ從五位下と授とあるハ即神領田八町
と寄進やいふといふ又正一位の神位と授とあるハ
即神領田八十町と寄進と云ふ事あるも今ハ一歩田と
云ふ社よと正一位福荷ふと扁額と掲ハ文盲の加ふり

あり此位知行八十石を以て位ハ從五位ありといひ
 位ハ一位と極ても知取ハ千石より是ざる數を不相當と
 といふべきもの也職分田の次第 太政大臣四十町現米千石
 一月の俸八十三斛三斗三升三合 左大臣三十町現米七百
 二斗三升三合より餘ハ増へ給ふし
 五十 右大臣同上 大納言廿町現米五百 並ニ食祿の田
 地あり又後世まで杖持米といふ糶米五合と白米といふ
 此ハ春耗ツキハラ一割あして四合五抄是といふ一日の口糧コシホは
 糶米是より一升乃分量と割あして一人杖持一月は一
 斗五升あり是は月俸とし廩米クラを受ふ歳料あして一石
 八斗あり是といふ口糧ヒリキキとして計ふ 五人月俸七斗五升

歳料の石 十人月俸一石五斗歳料十八石 百人月俸
 十五石歳料百八十石 千人月俸百五十石歳料千八百
 石 万人月俸千五百石歳料一万八千石 十万人月俸
 一万五千石歳料十八万石 百万人月俸十五万石歳料
 百八十万石の積あり 伊木氏曰月俸者算閏月而賜之不
算月大小也又算之法依侯藩有
異 ○按ニ積ハ実積より出て高きより又兵賦と積と
同 といハ轉運するも倍々千石の富と領知志々々者ハ出
 陣するも賦して軍役と増するなり固予生乃直番字は
 ねたよりの賦といふ自糧ラニカヒを奉出とあはしむるは
 乃事その分のみよりけおるそのものせりゆゑアサユフ 納言の生活キハヒ

はへ不續よ及て即今百里おの出行^{チカチ}と一バ武墨馬具
の発装^{ヨソホヒ}千石と沽却^{ウリク}とと淨い^{トシ}がさき者ある^{トシ}故よ田
千石の高と一人して持ちりる^{トシ}と十人よ持ちれば
別國乃幹^{ツヨミ}よさるといふ^{トシ}あり是ハ子^{トシ}を^{トシ}持ち^{トシ}あが
らそれ^{トシ}の才^{トシ}能^{トシ}あ^{トシ}き^{トシ}志^{トシ}の^{トシ}さ^{トシ}し^{トシ}志^{トシ}は^{トシ}と^{トシ}百^{トシ}石^{トシ}に^{トシ}
十人一分封^{ワケアチカ}一バ十人内よハ千石取^{トシ}よ^{トシ}務^{トシ}まる^{トシ}才^{トシ}幹^{トシ}乃
志^{トシ}出^{トシ}来^{トシ}る^{トシ}も^{トシ}あり^{トシ}凡^{トシ}高^{トシ}と^{トシ}持^{トシ}る^{トシ}もの^{トシ}は^{トシ}ま^{トシ}と^{トシ}勤^{トシ}て^{トシ}も^{トシ}役
料^{トシ}ハ^{トシ}取^{トシ}は^{トシ}ゆ^{トシ}急^{トシ}と^{トシ}持^{トシ}は^{トシ}た^{トシ}あ^{トシ}れ^{トシ}ど^{トシ}あ^{トシ}ら^{トシ}と^{トシ}取^{トシ}魚^{トシ}
中^{トシ}付^{トシ}食^{トシ}米^{トシ}と^{トシ}の^{トシ}高^{トシ}よ^{トシ}易^{トシ}ある^{トシ}と^{トシ}持^{トシ}お^{トシ}方^{トシ}持^{トシ}お^{トシ}ま^{トシ}と^{トシ}り^{トシ}凡^{トシ}
士^{トシ}ハ^{トシ}ま^{トシ}あ^{トシ}人^{トシ}乃^{トシ}名^{トシ}目^{トシ}と^{トシ}あ^{トシ}ま^{トシ}し^{トシ}人^{トシ}より^{トシ}さ^{トシ}く^{トシ}取^{トシ}る^{トシ}事^{トシ}ハ^{トシ}さ^{トシ}き^{トシ}と^{トシ}あ^{トシ}

甲斐守申不孝^{トシ}あ^{トシ}し^{トシ}て^{トシ}さ^{トシ}く^{トシ}夫^{トシ}ハ^{トシ}ま^{トシ}あ^{トシ}子^{トシ}と^{トシ}保^{トシ}ぐ^{トシ}さ^{トシ}し^{トシ}ゆ^{トシ}え
さ^{トシ}枝^{トシ}持^{トシ}と^{トシ}無^{トシ}し^{トシ}と^{トシ}持^{トシ}助^{トシ}ま^{トシ}さ^{トシ}と^{トシ}い^{トシ}ま^{トシ}り^{トシ}然^{トシ}よ^{トシ}言^{トシ}成
持^{トシ}ら^{トシ}る^{トシ}志^{トシ}よ^{トシ}奉^{トシ}ら^{トシ}し^{トシ}バ^{トシ}復^{トシ}役^{トシ}料^{トシ}と^{トシ}無^{トシ}し^{トシ}ハ^{トシ}二^{トシ}重^{トシ}取^{トシ}を^{トシ}り
唯^{トシ}官^{トシ}さ^{トシ}く^{トシ}さ^{トシ}ら^{トシ}れ^{トシ}バ^{トシ}官^{トシ}に^{トシ}加^{トシ}給^{トシ}て^{トシ}共^{トシ}に^{トシ}重^{トシ}取^{トシ}
し^{トシ}士^{トシ}家^{トシ}部^{トシ}の^{トシ}者^{トシ}高^{トシ}ま^{トシ}く^{トシ}持^{トシ}持^{トシ}あ^{トシ}ら^{トシ}れ^{トシ}バ^{トシ}官^{トシ}に^{トシ}加^{トシ}給^{トシ}て^{トシ}名^{トシ}ハ^{トシ}士
ま^{トシ}れ^{トシ}ど^{トシ}も^{トシ}突^{トシ}ハ^{トシ}浪^{トシ}人^{トシ}ま^{トシ}り^{トシ}ま^{トシ}ゆ^{トシ}え^{トシ}高^{トシ}と^{トシ}い^{トシ}ま^{トシ}さ^{トシ}ら^{トシ}と^{トシ}定
式^{トシ}と^{トシ}さ^{トシ}り^{トシ}早^{トシ}よ^{トシ}さ^{トシ}ら^{トシ}い^{トシ}備^{トシ}頼^{トシ}を^{トシ}支^{トシ}配^{トシ}と^{トシ}ま^{トシ}り^{トシ}て^{トシ}そ^{トシ}上
の^{トシ}高^{トシ}の^{トシ}お^{トシ}の^{トシ}さ^{トシ}ら^{トシ}い^{トシ}ま^{トシ}さ^{トシ}ら^{トシ}よ^{トシ}一^{トシ}阿^{トシ}し^{トシ}ま^{トシ}存^{トシ}り^{トシ}又
高^{トシ}と^{トシ}も^{トシ}扶^{トシ}持^{トシ}と^{トシ}も^{トシ}支^{トシ}あ^{トシ}ら^{トシ}る^{トシ}家^{トシ}業^{トシ}よ^{トシ}ら^{トシ}く^{トシ}利^{トシ}得^{トシ}よ^{トシ}取^{トシ}
も^{トシ}との^{トシ}は^{トシ}田^{トシ}禄^{トシ}と^{トシ}没^{トシ}収^{トシ}る^{トシ}ゆ^{トシ}え^{トシ}お^{トシ}の^{トシ}く^{トシ}道^{トシ}と^{トシ}修^{トシ}し^{トシ}速^{トシ}と^{トシ}情^{トシ}

ひと士大夫とてふ身統の法律あり○むりー封建郡縣
の分ありて郡縣の制より位田某町とあり夫より知
領地とて呼ぶ一と世の徳の善なるよつと名稱も鄙く
くごらりて某町といつととさるるて田地の法料は係
何貫文とて呼ぶ遂に米の粒と直とて何百石あり
いふとよい法よりと制度通曰いぬく田とてと
よハ町といふ位田職田とて幾町とありて法を法あり
近世百年前より貫とていふとありいづれの法より始
るとして法とて今夷政より俗説辨曰武家系圖相模
入道平高時の條下に領地二十八万七千貫當知行百四

十三万五千石是田五段と一貫とて法をのあり或云
青砥菰子所領三万四千石修養代知所ありし
てハ六万四千石ありて法徳太子記曰毛利元就ハ丹
治比三百貫と法也一猿掛城より敷起し吉田三千石と
唐上法北越軍談曰二万貫今云二一万貫今云十塩尻石
直とて書の中フミ後奈良帝天文十九年天野賢景三州
大領して五十貫文の米地を拜領してとて收納五百
石の地あり又曰天正の石直東國ハ一貫より石西國ハ
八石あり但天文の法ハ上州辺の分ハ錢一貫文より十石
ありし由とてとて此法定むとてとて近頃仙臺林氏著

七しよのに四貫文ハ四十石也七八貫といつて七八十
 石より足五十貫ハ五百石百貫ハ千石五百貫ハ千石
 千貫ハ一万石あり或曰石以下と貫といて称ぞ十貫
 と百石とよらハ百石の末と江戸の價よりあしつて
 解の准つて知盡し然ども法所異同ありておれしつて
 比々の淺き名ハ一石よりして九六七八とどの差あるが
 だ
玉露叢曰近年仙臺の知行五貫文と他家の百石
 とは須銘源曰田一坪は福苗一把種て百坪あり把
 程とと百目と云千坪と一貫と云大抵十坪ハ百石百貫
 ハ千石とあると千坪下田よりて一定は倍あり百石ハ
 畝ありあり米ありて四ヶ石又ハ三十五石ありより
 て田物浅云々おふと云々あり常典雜史曰鎌倉松
 尾東慶寺の御米印は百十二貫三百八十文とあるハ
 時の收納五百石のよしと云うれハ田一坪は苗百把と云



るるあり皆あつたま 固本録曰永一貫文ハ五とけりて高
 五石とあるまよおつたせりけ米二石五斗とあるハ古
 来の定まりと又永一兩代ハ金一分ハ永二百五十五文四ハ
 別ハ十二文半と一兩と云二十一文二分五厘と銖中と
云三珠より珠中まで一兩六十目グへよて銀上納あり
又三村よりありお米の定家同あり又室東まで陸田の租
ハ一畝ハハ永樂何文取とつてあり永樂三畝又取
 二畝又九四中又取とどのおと奥人の記はしり
 石以下の高は貫とよて称するハ糙米の價凡永十貫より
 るがゆゑよ十貫高と云つてあり續貫行曰永高乃事

云畿内近國ハ百貫千石ノ中ノ實東ハ百貫六千石又五
石ノ元々モあり異州ノハ若八十貫百石ノ元々ノ元々ノ
後五貫と百石ノ一十貫七千石ノ元々ノ村里ありて法
必一統ありて運上ノ便ありき所ノ場不_レして永樂ノ
言ノ省と永高を_レる_レもの_レ元々ノ元々ノ永一貫文ノ價錢
よ_レあ_レげ_レ四貫文金ノあ_レげ_レ一兩銀ノ元々_レあ_レげ_レ六十兩ノ
積持引分聖と違_レて_レハ永勅_レあり_レ永樂ノ事世ノ傳_レ
い_レど_レ何_レの_レ法_レあり_レ田_レ地_レの_レ高_レ低_レの_レ代_レと_レ永樂_レと_レ詢_レ
今_レハ_レ畑_レ方_レの_レ元_レと_レ海_レノ_レ元_レと_レ永樂_レ通_レ寶_レ錢_レの_レ元_レ
ハ_レ支_レし_レ永樂_レ通_レ寶_レハ_レ明_レの_レ二_レ世_レ永樂_レ年_レ中_レ造_レ所_レと_レ吾

邦_レ元_レ永_レ中_レノ_レ元_レと_レ然_レノ_レ元_レ永_レ以前_レより_レ永樂_レ高_レの_レ村_レ諸
元_レと_レあり_レ 後醍醐帝_レの_レ元_レ應_レの_レ元_レ楠_レ正_レ茂_レ所_レ領_レ河_レ内_レ國_レノ_レ
て_レ永樂_レ七_レ千_レ貫_レと_レい_レふ_レと_レあり_レ今_レ按_レ子_レ金_レ銀_レ錢_レ譜_レ曰_レ
表記中、古 後小松天皇應永十年八月二日大風翌三日
治、乱、記、等、 唐船一艘相州三崎の浦へ漂着、其方是利左兵衛
督滿兼船中の載物と點檢するに永樂錢數百萬貫と積
載あり此由京都に告るれば新將軍足利義持の下知と
して滿兼を興つられしり_レバ_レ却_レて_レ實_レ東_レノ_レお_レり_レて_レ通_レ用_レい
とし天正十八年北条氏政の頃まで行きたる一統の後
慶長十一年十二月永樂錢停止ありて元和二年五月銅錢

の令と出されしよし編年集成東武実録等より詳あり今
 和漢年契字より據るに應永十年八月明太宗永樂元年より
 其年よりと稱造らるる新造と云ふは船中より載す
 ると受來ありきより又按ず法曹主要鈔より建久四年宣
 旨停止宋朝錢貨とありて永正五年の條目より撰錢の儀
 ウキヒラメヲノゾク其外の渡唐錢永樂洪武宣徳ワシ
 錢以下合て百文より三十二錢分一可有之於向後者トリ
 ワタスベキ事思錢賣買一切可停止事又於古今渡唐錢
 者悉以可取用之とありて中頃ハ永樂より洪武
 以下の錢と有り隨に取用ありしを永樂とらるるあり

は錢乃事あふべし蓋應永十年後流入しと前
 國々に依て流るるありて永樂と云ふは永樂一貫に
 石代ととも浪華冬陣の時金一兩に銀七石代夏陣は
 六石代ふどありしなり今據金銀錢雜記曰永樂錢は
 應永申明と教く通好に故に此錢多く持て永樂
 正天文祿まで編流行せし是より前北條時宗が執
 權の時金銭元に遣て銅錢と買來し通用し又利義政
 より明乃禮部官に書と贈り十萬貫の錢を得て通用
 是等玉政乃表へし一端あり又古ハ百錢あり弘仁
 の頃より省百錢一又天文十九年北條氏康命て昇東は
 六、後、の、百、錢、始、む、又、天、文、十、九、年、北、條、氏、康、命、て、昇、東、は
 永樂錢と云ふ用は是なり慶長十一年まで五十七年
 東は唯之の使て鈕ハ西に繋るなり永樂一貫文に
 鈕四貫文子當是と當四錢と号く又永樂一貫文に
 目子亮此金は即黄金也黄金十兩は即大判金一枚也因
 貫鈕一兩に錢四十貫とあるハ永樂より明し家忠日記
 天正の初迄ハ知行何ぞとありし此同十八年御家人へ

采地と賜るに何万石誰とそめ是全く石にありし始
かふみや 又按天正十六年豊臣太閤より吾先彦に播津
の内一萬石を被充行等の知行録ありされ
ハ天正の中間よりいどを 又按前漢書注ハ漢制三公
をく田地の石附せし事也
称萬石其俸月各三百五十斛穀其称中二千石者月各百
八十斛二千石者百二十斛とあり是三公といふは周
年の通計僅に四千二百斛を蓋漢二千石と云ハ今
本邦よて現年二百石に當るその二千石ハ卿の祿と
史記索隱に二千石ハ是郡守の秩其俸月三百二十斛と
あり百二十石ハ本邦の十二石に當る後漢光武紀注
にハ二千石ハ郡主の秩とあり郡主ハいふは一の郡

領も準じし其秩祿の輕きはなほし

井地 即井田也多識編ハ古々乃毛
毛字稱乃多と訓ハ義讀也

蕃名無之

夫井田ハ黃帝ハ時子 金 といども三代同く行は
く周々表へ人其法ハ 多 遂と秦民意 多 遂と廬井と滅
して阡陌と開く故に堯舜復出るとも亦以行ふと終ざ
はづしと區博が王莽と諫めし 多 況や今日絶域
よ在て其絶迹と説ハ實に不急の難といふ 多 聊事
固てそ大段と推考 多 凡井田の制ハ夏殷周代 多 更
改 カ 或 ク 疑て曰夏ハ五十畝 多 貢し殷ハ七十畝 多

して助し周ハ百畝ありて徹に三代かくのおとく変易
もふと夫天下と疆理もとの初許多州畎澮溝洫と廢
壞して民衆と勞擾し既成の業と破て其煩雜擧て計
るべり〜と〜い〜り〜之と強辨もとのおとく〜
周の革命余小其田地歩率と改めあはして畝と増し制と
更て百姓も多ち與へ雄強併貪ふと多く其田均しく是
賦稱いて百姓うははふ是と民と使の衆と勤とげ則
民其勞と忘れて煩雜もとのおとく〜と〜い〜り〜
れ田地不案内のぬま紙上の揣摩も文は行る孟子井地
の章饒氏云井田之法黃帝開端便做成了如何改得商人

七十畝周人如何便更百畝至於溝洫塗畛亦非一朝一夕
所能成朱子亦嘗疑之王制與周禮已不同孟子多是臆度
言之井田可行於中原平曠之地若是地勢高低如何可井
恐江南是用貢法阡陌是田間路古人車制一車濶六尺有
餘兩傍又翼之以入占田太多商君欲富國所以鑿開阡陌
為田前此諸侯欲富其國井田大綱已自廢了商君則索性
壞却とあり井田の地として棊枰のやうに透ぬをもとの
〜とわりつめ〜と〜い〜り〜之と強辨もとのおとく〜
の地ありて五十畝乃繩引〜と〜い〜り〜
十畝とあり〜と〜い〜り〜
今時〜と〜い〜り〜

地よお領と云ハ竿^{サノビ}贏^ビして新領と云ハ竿^{サノビ}お縮^{チヌ}の地ある
がごとし夏よりハ殷殷よりハ周と漸く生^{ヒトカズ}萬^{マニ}繁^{フエ}殖^シて耕
地ハ浸^ヤ逼^セ迫^リしゆ急^キ田地^ノの頒^{アツケ}授^ケ略^ク細^コよあきざらば天
下^ノ私^ニの糧^ヲ積^ミ足^ルさるゝとて五十畝より七十畝七十畝
より百畝まで竿^{サノビ}の丈^ヲ出^シとあ^らし^きるあり是^レ惣^ト頭^トハ家^カ戸^{モト}
きえまの何^カもそと家^カ戸^{モト}に附^クる條^ニ夫^{コヒ}佃^シ僕^シ多^クくありし
おどにいづまも田地^ノ廣^クま^らざれば耕^ク作^スるつうへ収
納^ス少^クきゆ急^キありされバ周の時^ニ公^ノ田^ハ殷^ノのちけり七十
畝^トして私^ノ田^ノのちと百畝^トあ^らし^きるありとあ^らば格^ノ外^ノの六
ちとつづりれども田^ノの時^ニ零^ケあ^らく竿^{サノビ}と入^リつむし

つふハ夏ハ百畝^ノの儀^ノより高^ク鞅^ヲ汗^ヲ洒^スとあ^らせて田地^ノを廣
くするつふも百畝^トしておつゝる井^ノ田^ヲなれば是^レ
むておま^カ丈^ヲ出^シの仕^ノ方^ヲなればお勢^ノの事^ヲあり 井田の内
遂^ニ前^ニ百^ノ畝
池^ノ間^ノ百^ノ夫^ノ而^シ涇^ノ涂^ヲ為^シ陌^ノ溝^ノ間^ノ千^ノ畝^ノ澮^ノ間^ノ千^ノ夫^ノ而^シ
畛^ノ道^ヲ為^シ阡^ノとありて阡^ノ陌^ノハ田^ノ中^ノノ大^ノ道^ノなり 夫^ノ天下^ノ許^ス多^ク
の田地^ノと一^ニ統^トよ^リ變^ヒ改^メするは一朝^ノ夕^ノのちとべきわ
ざら^ばい^づれ^ど年^ノ竟^ス周^ノ未^キもむり清^ク産^シ我^レ造^ルくして自^ラ能^クと^ル壤
と^らる^る井^ノ田^トと高^ク鞅^ヲ汗^ヲ洒^スの時^ニ天下^ノ悉^ク井^ノ田^ヲなりとあ^らし^きる
とよ^から^ばい^づれ^どハあ^らし^きるつう^もい^づれ^どや^らし^きるし朱
熹^ノ云^フ考^ス周^ノ禮^ヲ行^フ助^ノ法^ヲ處^ニ有^リ公^ノ田^ヲ行^フ貢^ノ法^ヲ處^ニ無^ク公^ノ田^ト孟^ノ子^ト也^ト不

曾見周禮とある前ハ川島某夏殷周の井田畝數と并計
してその畫と圖して田賦集に載るる志くれども懸奇
みして費辭を堪へず故に今復野間政温刪訂する所と
以て更ハ別圖と從多因或向一條と辨してその條緒と
補ふと云

夏殷周井地畧解

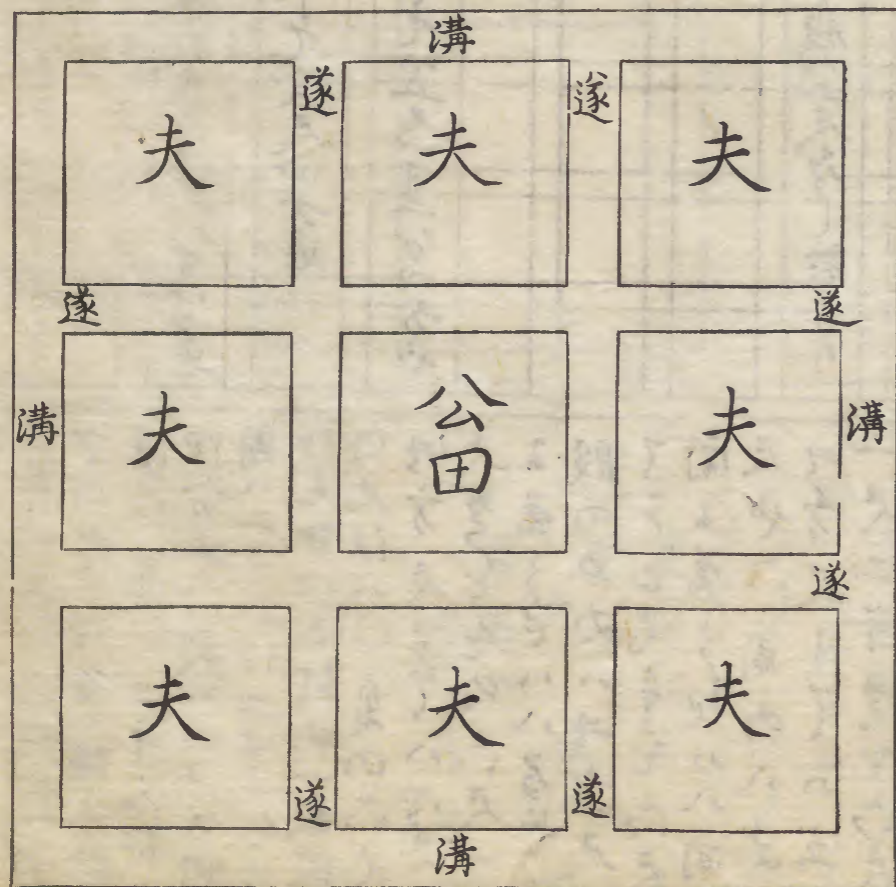
夏田九區四百五十畝の地と經畫して一井と爲し一夫
田五十畝と云くその田一畝ハ縱十步横五步にして九
夫家毎に五十畝にくと更きて半ハ菜田と爲す中五畝
の收をなせし一がゆゑよきと付が一の貢法と云

殷田九區六百三十畝の地と爲て一井と爲し一夫の田
縱十畝横七畝の七十畝と爲八夫井と爲し餘の八區と
私田と定めその一區と爲田と爲し九一の法と定む是
と助法と爲助ハ藉也民力を借て爲田と爲すの義也七
十畝の中三十畝ハ菜田とし十四畝ハ廬舎と爲
周田九區九百畝の地と爲て一井と爲し一夫の田縱十畝
横十畝の百畝と爲九夫井と爲し付が一の賦と爲す近
郊の外ハ殷の爲と爲助法と爲しハ夫井と爲し九一の
賦と爲す百畝の中二十畝と爲廬舎とし其二十畝とハ夫
受取て爲すは各二畝半と爲して田と爲す所の居處と

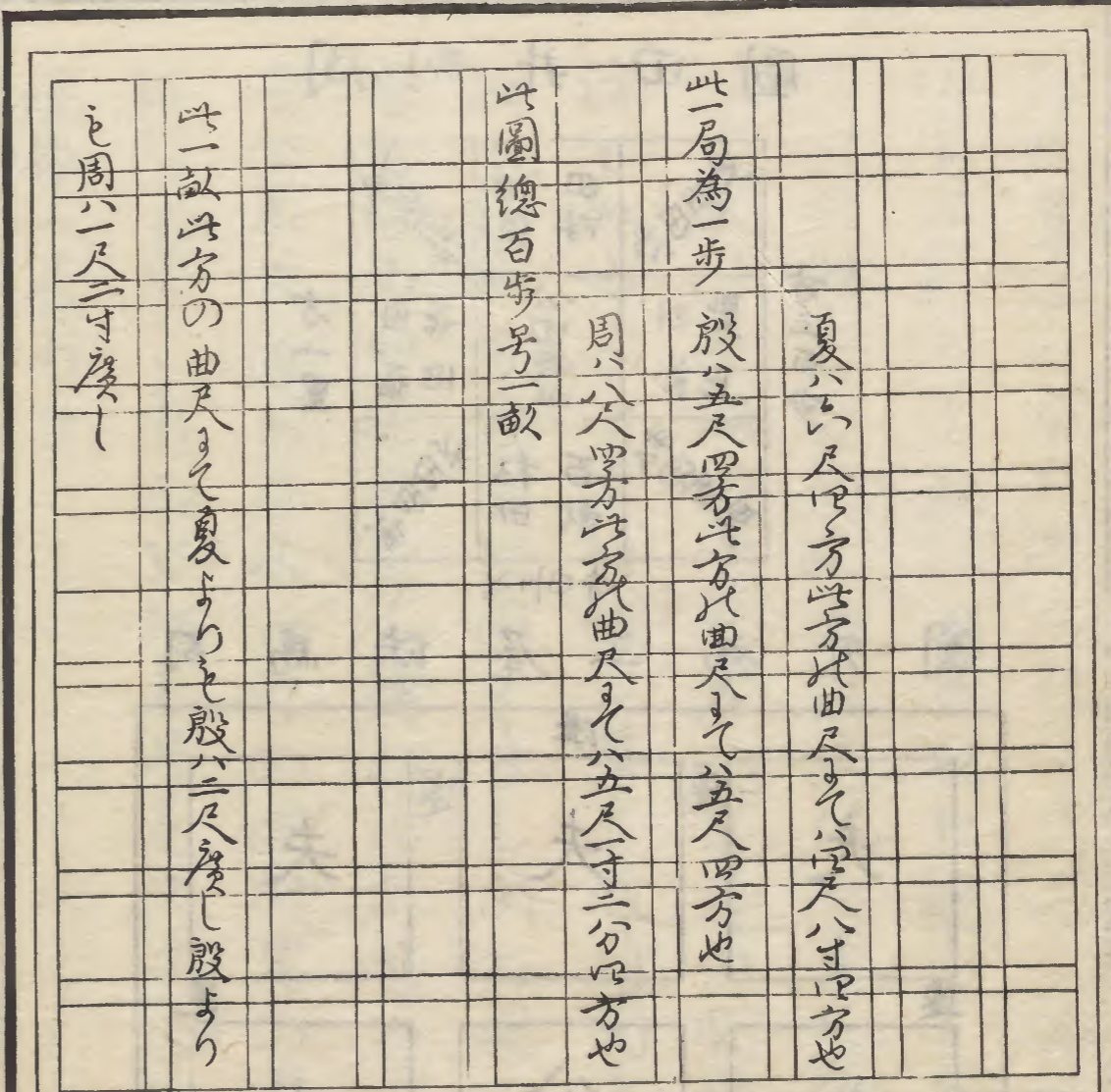
周制井田圖



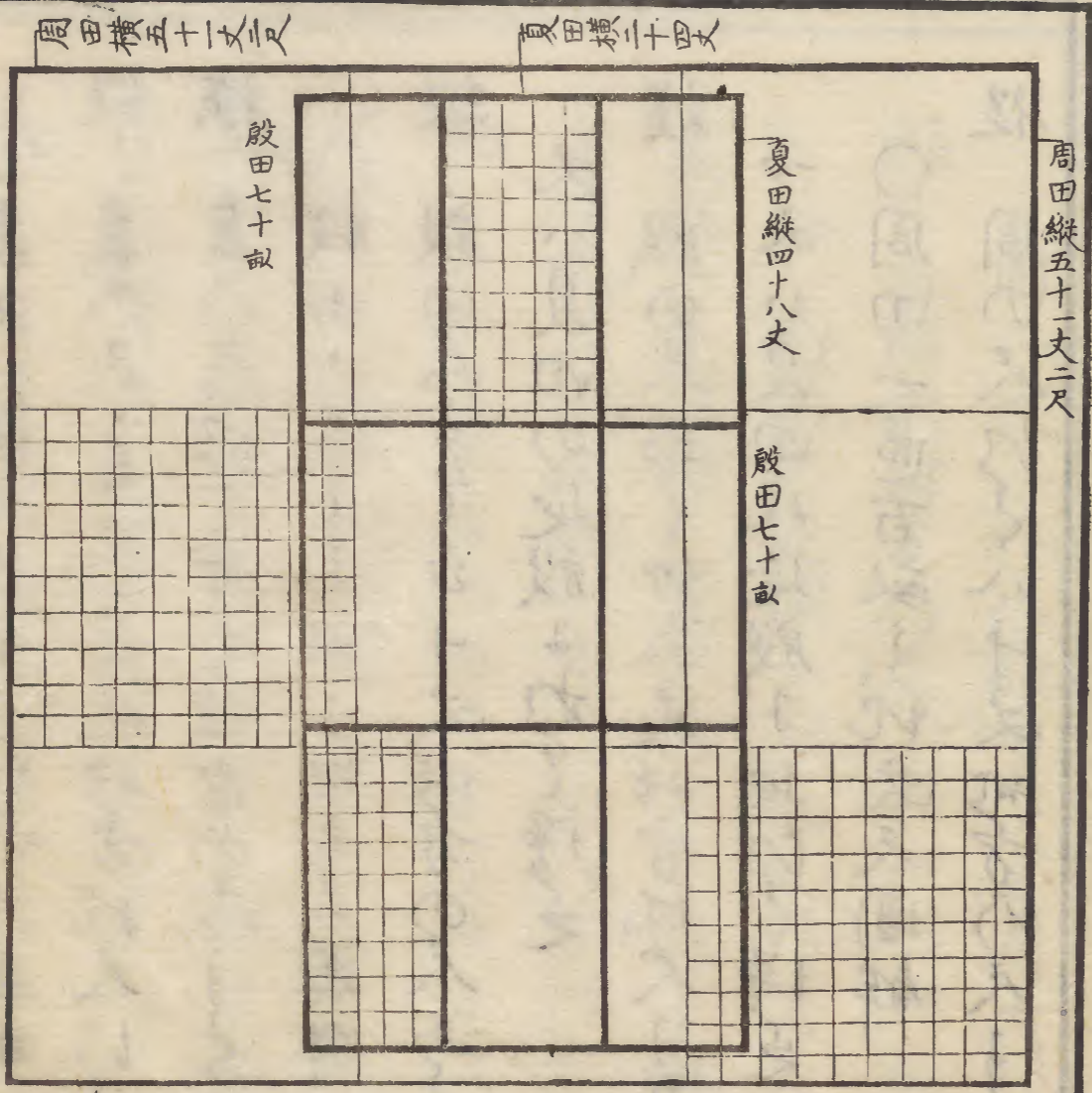
司馬法三井為井圖



次其菜田ハ皆別井ヲ作トス是ヨ由テ一夫耕ト所ノ公
 田實ハ計子十畝私田百畝ト通シテ其一セ取ル故子十
 グ一の賦トシテ又助法貢法ト兼テ通徹モ故子之セ徹
 法ト云○凡周田一井方一里井の間水道度四尺深四尺
 溝トシテ方十里成ト号シ成乃間各通廣八尺深八尺
 洫トシテ方百里ト同ト号シ同の間水乃廣二尋深二洫
 澮トシテ方千里ト同ト号シ澮乃上ニ澮あり
 澮の上ニ道あり又一井の間澮界の乃六尺あり南北
 澮ト号シ東西ト隔ト号モ又田中デシテの水道ト畎ト云廣
 深各一尺あり



田の畧ハ夏の歩也中の
 未ハ殷の歩也外の畧
 ハ周の歩也三代の一步此
 方の一尺四方一坪は為の
 法○夏ハ二十寸坪下
 四分也○殷ハ二十五坪也
 周ハ二十六坪二寸一分は里
 也○三代の一代の畝は
 此方尺よりハ八寸ハ
 尺是をその六尺一間
 是為とさハ八尺也○
 殷の五丈ハ此方尺よ
 りとさ五丈とさ一
 間は為とさハ八間二
 尺二寸也



○三代田制廣狹圖
 前の夏殷周の井地
 廣狹と書き記した
 り計ありハ三形
 地の畫とありと延
 之の也
 夏の一井ハ田井畧
 大き書筋也
 殷の一井ハ中井畧
 也
 周は一井ハおの畧
 也
 又夏田一區の六十
 畝殷の七十畝周は
 百畝是はけやすき
 之をさしはるる二區
 也

○夏田一區五十畝之地丈尺圖解

縦 夏の尺より六十丈此方此尺よりハ四十八丈

横 夏乃尺にて卅丈此方の尺よりハ廿四丈也

○殷田一區七十畝之地丈尺圖解

縦 殷の尺より五十丈此方の尺よりハ五十丈、内二

丈ハ夏田の延殷より増之

横 殷の尺より卅五丈此方此尺よりハ卅五丈、内十

丈ハ夏田の延殷より増之

○周田一區百畝之地丈尺圖解

縦 周の尺より八十丈此方乃尺よりハ五十一丈二尺

内一丈二尺ハ殷田乃延周より増之

横 右同前可方乃尺よりハ五十一丈二尺、内十六丈二

尺ハ殷田の延周より増之

夏此一夫の地ハ夏の尺よりハ十畝横ハ畝と并して一

區定數五十畝也一夫乃田此方此一尺四角乃坪なり

數 十一万六千二百坪也今此方此六尺一步の田よりし

てハ 一町六畝也也

殷の一夫の地ハ殷の尺よりハ十畝横七畝と并して一

區定數七十畝也一夫此田此方乃一尺四角の坪なり

數 十七万六千二百坪也今此方の田よりしハ 一町六反

二畝一步と一尺坪四寸也。内五反五畝十一歩余八畝
此一夫此地よりと多き也

周乃一夫の地ハ周の尺に縦十畝横十畝と此一
區定數百畝也此方乃一尺四方此坪より畝の數 廿六
百二子百四十四坪也今方此田にしてハ 二町四反
二畝亦一步と尺坪廿八也 内八反廿歩余ハ殷の一夫
此地よりと多き也

右之代井田の^一一畝或同田殷の一夫此田ハ夏代一夫
井田よりと多き也 此方の田にして五反五畝余 周代一夫の田ハ殷の一
夫乃田よりと多き 此方乃田より二反廿歩余 配高せしとハ夏殷

に田地不足めて改増する也 答曰不然是地と云え
るり近き事さバ當時より山野并に^てて原野
と水乃たよりより紀不^レ移^レ居^ル望ハ一畝より一段^レの
田越^レ過^ルお^レ少^クに^レげ^ルに^レ人より^レ廣^クなる^レて^レ十^ニも^レ多^ク
て^レ竿^と入^るま^はる^る田自然より一反三四畝も^レなる^るの^レあ
る^るの^レお^とく^レ夏^代五十畝の田も^レ少^クに^レげ^ル廣^クあり^て殷
の^レ改^る時^迄と^レ名^同ハ^レ五十畝とい^つと^と實^ハ七十畝に
と^るが^らい^ふる^るま^はる^る一^般に^レ新^田と^レ作^りて^レ所^々に^レま^はる^る
て^レハ^レなく^レ自然^の廣^りる^る田^も竿^と入^る延^地と^レ打^出し^て
る^るあ^らは^る夏^の代^もハ^レ一^井より^も田^{五十畝}地^納と^レ殷

廿七畝と定し年よりハ七十畝乃納とす
あり志くばハ廿畝の納を被て二十畝は延地あり
此の志くば延地の為あり延地争く田の納りたるハ世
のくだちも志ほしあり周と之の子孫へ知令し同田
志くば殷周の地と改埒する可き何 答曰延地と
しは一横もはあらず少くも多きを改めあり
よハ何れぞ井地境界ハ治國の基存ありば未敷と改め
田區と均して七十畝又ハ百畝づつ能事やハよろし
きものしは世に公あり上より申さんハ殷と改め
時夏田ハ延地ありば一夫ハ七十畝納とありて公

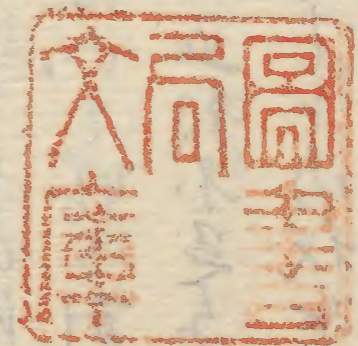
田ハ春のぶとく五十畝あり並周と之かくのぶとく
一夫ハ百畝納を配當して公田ハ殷の七十畝乃納と
叙くば民との治法を被るは世に公あり
よ夏五十畝と殷と七十畝とまじ周とハ百畝
つて何れも一町ハ周政ハ民ハ共す
やうにゆきどもに何れも夫夏とハ五十畝と公
田とす 五十畝ハ此方の田ハ 延ハ八夫より十畝づつ
一夫より一石余げの納めしは周とハ百畝と公田
とす 百畝此方の田ハ 延ハ八夫より十畝づつ
夫より二石余げの上納をせしむは夏ハ周ハ夏と

里と重敷ツヨトリありしはとあり去るはわれど殷の七十畝
といつごととを置ふる畝ととる周の百畝といつごととを
置ふる百廿歩と延畝ありしあるごとし又同田右の多乃比
とく田も延地多きとらぬかきとあり一は延
地あるごとしと 答曰果はあつてもあつてもは右のよとし
といつごとと残上の様式をまゐりてやうまぬべり
は夫田の水を存とし各はむさくに貯ふとのされむい
うむと唐き西郡ととも碓氷のざとく千方里いつか
ぬとあり 本邦ととも縦六方と横五方と二十歩の
一畝とし縦六方と横五方と一町と定められども

地はと周して八縦百方と横三方ととも一畝とし又方園ヒシ
尖斜ヒシなど家敷の田ありふとされば却て家のびとく方
止ロシのとも下の溝道の境と改め給るときは人夫と茅
費と家カと勝て計を盡くすば又夏殷周ハ聖人の世と
と何と五穀不足あり上は新田と開き民を勤しその斂
と重くしその税と増を盡くすや又夏の代において
五十畝まで不足とやば高的よ之と増さしめと殷周
と味をくすば去るは殷はあつて増し又周はむと増
とるハみく年所と置ておのつと延地あり且之代共
子革命ヨカリの後天下此田地を支配をつけてゆく畝敷と増

Handwritten signature or title in the top right corner.

成形圖說卷之七終



Main body of handwritten text in vertical columns, written in a cursive style.

